

エンデュランス競技における馬のウェルフェアについて

FEI 事務局長殿

ベルギー王立馬術連盟(FRBSE)は、中東のライダーが彼らの国で、またはヨーロッパで主催したエンデュランス・ライド以来届いた報告書に、非常に憂慮している。

2011～2012 年の冬のシーズンのあいだ、カタール、バーレーン、アラブ首長国連邦で開催された CEI 大会において、極度の疲労の結果死亡した馬、あるいは自然発生的な骨折の結果安楽死させられた馬の数は、想像を絶する高率に達した。これらの国の多くの競技馬は 2012 年夏にヨーロッパのさまざまな大会に参加し、つい最近も（これもまた悲しい例なのだが）チェコのモスト（2013 年にヨーロッパ選手権—オープンの！—を開いた都市）で開催された大会に参加した。馬たちは、また、鞍を置かれたまま死に、あるいは、自然発生的な骨折の結果安楽死させられた。ヨーロッパでエンデュランスが始まって以来（30 年以上もの間）エンデュランスで死んだ馬の数はわずか（年間に 1～2 頭、すべて事故死）であり、自然発生的な骨折など皆無だったのに、である。

FRBSE は、これらのライダーや厩舎の振る舞いによって侮辱された。こうした虐待行為が傷つけるのは、倫理的・規範的な面だけではない。もしメディアが大衆に向かってこの恥ずべき事態を詳しく明らかにすることにした場合、馬術競技全体とそれを運営する連盟は大きな痛手を負うことになるだろう。FRBSE は、そのような破滅的な結果を恐ろしくて想像できない。

加害者が馬術競技から追放され、このような行為が永久になくすることを確実にするための必要な措置を FEI が講じてくれると、我々は信じている。我々は、近日中に事実の報告書を送付し、FEI に変わらぬ支持を約束するだろう。馬術競技全般、そしてとくにエンデュランスの未来がかかっているが、それだけではない。すべての馬術連盟がその名に値するかどうかの、名誉と信用がかかっているのだ。

敬具

ベルギー王立馬術連盟会長

Wendy Laeremans